

「地域未来塾」取組事例集

～ 平成28年度 ～



長野県教育委員会事務局

文化財・生涯学習課

市町村/学校組合	学校名(実施事業名)	ページ
《南信地区》		
伊那市	伊那市立東部中学校	1
駒ヶ根市	駒ヶ根市立東中学校	2
飯島町	飯島町立飯島中学校	3
宮田村	宮田村立宮田中学校(うめっこ塾)	4
富士見町	富士見町立富士見中学校(グローアップ講座)	5
松川町	松川町立松川中学校(てらこや松中)	6
高森町	高森町立高森中学校(小原ヶ丘塾)	7
《中信地区》		
麻績村筑北村学校組合	麻績村筑北村学校組合立筑北中学校	8
松川村	松川村立松川中学校(放課後学習教室)	9
《北信地区》		
小布施町	小布施町立小布施中学校(学力向上支援教室・学習支援セミナー)	10

※複数校で地域未来塾事業を行っている自治体においては、1事例の掲載としています。

伊那市立東部中学校(他、5中学校で実施)

事業実施状況

担当課・係	伊那市教育委員会 学校教育課 教育総務係	
活動場所	伊那市立東部中学校	
登録人数	3年生79名	
実施日等	平日 毎週火・金曜日 放課後16:45～17:45	
	土日	—
	長期休業	—
実施教科	数学・英語	
負担金	なし	
学習形式	個別学習	



コーディネーター	東部中学校 教頭
学習支援員	地域住民8名 大学生3名 本港市職員2名
ボランティア	高校生アシスタント5名(伊那北高校生)

主なICT機器	ICT機器整備事業の活用(有・無)
	タブレット8台 大型モニター1台

取組の具体

- 数学、英語とも、「基礎」「標準」のコースを用意し、生徒の希望に応じて少人数学習となるようにしている。
- 基本的には、生徒が個人で学習を進め、わからない点を支援員に質問するという形で進めている。
- コースによっては、ICT機器の活用ができるようにし、タブレット端末を使った学習も取り入れている。
 - ・英単語を自作ドリルで覚える。
 - ・総合センターの「クリア問題・チャレンジ問題」に音声を入れ、英文と音声を同時に見聞きできるようにした。
 - ・自作問題をiTunesUからダウンロードしモニターに映して、一つひとつ確認しながら学習できるようにした。

気づいたことや成果

- ipadを使うことで、生徒が意欲的に単語を覚えようとしていた。イヤホンも使えたので、他の生徒のことに気を取られず学習できた。
- 問題を共有する場面では、大きなモニター画面に映しながら確認していったが、黒板に書くよりも効率がよく、画像も鮮明であるので見やすかった。

課題や反省点

- ・ICT機器をある程度使いこなせる支援員を探していくことは、容易ではない。
- ・ICT機器の有効性は感じているが、放課後学習希望者全員が使うだけの台数をそろえられるかが課題。
- ・現在は数学と英語の2教科だけを実施しているが、他の教科も希望する声が多くなってきた時に、人材(支援員)の確保がかなり困難になる。

中学生・保護者の声

- <中学生の声>
- ◇1,2年の復習ができ、普通の授業では質問できないこともできるので、参加してよかった。
 - ◇支援員の先生方と親しく学習できた。
 - ◇ipadを使っていると時間を忘れて取り組むことができる。1時間があっという間に終わる感じがした。
- <保護者の声>
- ◇無料の学習支援が受けられありがたい。
 - ◇放課後学習支援に参加後、家庭学習への取り組みが向上したように感じる。

駒ヶ根市立東中学校(他、1中学校で実施)

事業実施状況



担当課・係	駒ヶ根市教育委員会 子ども課	
活動場所	東中学校	
登録人数	2年生8名 3年生17名	
実施日等	平日	毎週水曜日 15:40～16:40
	土日	—
	長期休業	8月1日～8月5日(1日2時間)
実施教科	数学、英語	
負担金	市教委より	
学習形式	個別学習	

コーディネーター	教頭
学習支援員	元教員(1名)その他(7名)
ボランティア	その他(1名)

主なICT機器	ICT機器整備事業の活用(有)無)
	タブレット8台

取組の具体

- 各学年から希望する生徒を募り、原則として水曜日の学校の活動が終了した後に行っている。
- 授業で学習した内容の復習を中心に行う基礎コースに加え、3年生には、発展問題やさまざまな形式が組み合わさった総合問題を中心に学習する発展コースを設け、応用力を身につけるように対応している。
- 夏休み中は、それまでの学習の復習と夏休みの宿題を行うコースを設定している。
- 3学年の合唱練習に合わせ、伴奏を依頼している。

気づいたことや成果

- 生徒の意欲を喚起するには、効果的な方法だと思われる。
- 生徒の希望が一人一人異なっているため、形態としては個別学習が効果的であり、1学級には5人程度までが適当であると思われる。
- 分からないところを重点的に学習したい生徒は、家に帰っても一人でできない部分が多く、ボランティアの方々に聞きながら行える機会は良いと思

課題や反省点

- ・生徒の希望、ボランティアの方の希望、学校側の意図等、それぞれに沿った形で行うことができるよう調整することが難しい。
- ・ボランティアの方の都合により、毎年同じように行うことが難しい。どのような形式で実践するかを、その度に変更することなく行おうとすると、募集の時点で条件が発生してしまう。
- ・学校側も依頼して終了ではなく様子を見て活動の形式や方法に修正・改善を行う必要がある。

中学生・保護者の声

〈中学生の声〉

- ◇ゆっくり教えてもらったので、勉強が分かってきた。
- ◇夏休みは、早く起きて登校したので、休み中の生活のリズムがきちんとできてよかった。

〈保護者の声〉

- ◇家では、勉強を教えてやる機会がないので、学校で復習をしてもらえるのはありがたい。

飯島町立飯島中学校

事業実施状況

担当課・係	飯島町教育委員会こども室	
活動場所	飯島中学校	
登録人数	25名	
実施日等	平日	水曜日午後3時から午後5時
	土日	土曜日午後1時から午後3時
	長期休業	—
実施教科	数学 英語	
負担金	なし	
学習形式	個別学習、授業形式両方	



コーディネーター	元教員1名
学習支援員	元教員3名、高校非常勤講師3名、学習塾英会話教室講師等2名、大学生2名、高校生2名、その他2名(合計14名)

主なICT機器	ICT機器整備事業の活用(有)・無)
	電子黒板1台、タブレット20台、プロジェクター1台、映像スクリーン1台

取組の具体

- 1、2年生と3年生のクラスに分かれ、1日のうち英語と数学を時間で交互に実施している。
- 生徒は普段の授業や宿題で分からないところを学習サポーターに聞いている。
- 講師の経歴や得意分野を生かした特設講座を2か月に1回ほど実施し、ICT機器を利用して授業を行っている。

気づいたことや成果

- 始めた当初は、学習サポーターも生徒も緊張していたが、慣れてきて気軽に声掛けし勉強している。
- 普段勉強しない子も勉強するようになった。
- サポーターも中学生と関わることを楽しくやってくれている。
- ICT機器は、中学生はとても操作に慣れているので、内容を深めた学習ができる。

課題や反省点

- ・学習サポーターの確保
- ・学力に差がある生徒への対応

中学生・保護者の声

〈中学生の声〉

- ◇学校の先生にきけない気軽に聞ける。
- ◇先生がいっぱいいるので、ききやすい先生に聞ける。
- ◇友達と勉強できて楽しい。
- ◇進路の話がとても参考になった。(特設講座)

〈保護者の声〉

- ◇勉強を家でしないので、とても助かる。
- ◇無料でやってくれてうれしい。
- ◇今小学生の兄弟がいるので中学に上がるまで何年も続けてほしい。

うめっこ塾(宮田村立宮田中学校)

事業実施状況

担当課・係	宮田村教育委員会 こども室	
活動場所	宮田中学校	
登録人数	1年96名 2年95名 3年104名	
実施日等	平日	—
	土日	土曜日 年間8回 午前9時～午前11時
	長期休業	—
実施教科	国語 社会 数学 理科 英語 音楽 美術 技家	
負担金	なし	
学習形式	個別学習	



コーディネーター	宮田中学校職員(1名)
学習支援員	宮田中学校職員(24名)
ボランティア	—

主なICT機器	ICT機器整備事業の活用(有 無)
	—

取組の具体

- 宮田村教育委員会では、平成14年度から児童生徒の土曜日の教育環境を豊かにし、経済状況により学習への取り組みに格差が生まれないようにするため、教育委員会が主催して小中学生の希望者に実施している。
- 宮田中学校では、年8回その都度希望者を募り、生徒の学力をより一層高めるとともに、家庭学習の習慣化を図ることを目的として実施している。毎回2時間、5教科を中心に個別学習形態で行い、職員は

気づいたことや成果

- 参加生徒数は、第1回(5/14)が98名、第2回(6/25)が110名など、全校生徒の約3分の1に上っており、概ね積極的に参加している。
- 自分で教科と時間を決めて参加したり、友と学び合ったりすることを通して、主体的、協働的な学習にもつながっている。
- 分からないところや自分で高めたいところを教員にきくことにより、学力向上につながっている。

課題や反省点

- ・生徒たちはそれぞれ自分で持ってきた補助教材等を使って学習をしているが、分からない点をそのままにして学習を進めていることが見られる。同じ場所を学習している生徒に対し、教員がポイントを示して教える等の工夫をさらに行っていきたい。

中学生・保護者の声

〈中学生の声〉

- ◇授業で遅れていたところを取り戻せてよかった。分からないことも先生にすぐに聞くことができてよかった。
- ◇勉強をする時間が増えてよかった。
- ◇みんなで勉強する空間の中だと、集中して勉強しやすい。受験まで毎週学校に集まって勉強したいくらい。
- ◇問題の解き方のコツやポイントなども教えていただき、とても充実した時間になった。

〈保護者の声〉

- ◇うめっこ塾に参加したいが、部活の練習試合と重なってしまい参加できなかったことがあり残念だった。

グローバル講座(富士見町立富士見中学校)

事業実施状況

担当課・係	富士見町教育委員会 子ども課 地域連携推進支援主事
活動場所	富士見中学校
登録人数	1年名 2年名 3年名
実施日等	平日 毎週水曜日放課後15:30~17:00 10月より週3日 朝7:35~8:05
	土日 —
	長期休業 夏休み 7月27日~8月3日
実施教科	国語・数学・英語・理科・社会
負担金	なし
学習形式	個別学習



コーディネーター	元教員(1名)
学習支援員	行政職員(3名)
ボランティア	元教員(9名) 塾講師(2名) 議員(1名) 元教授(1名) その他(1名)

主なICT機器	ICT機器整備事業の活用(有(無))
	—

取組の具体

- 水曜日放課後実施「夕学」について・月ごとに設定テーマで全校生徒に参加を募り、希望者に対して実施。国数英の支援を行う「グローバルタイム」と自由学習の「フリータイム」の組み合わせ。ボランティアの参加を確認し参加生徒数を考え担当を決め支援する内容の打ち合わせを事前に行い支援。
- 3年生の部活終了後朝実施「朝学」について・二週間を一まとまりとして生徒のニーズに合った教科・単元の復習を行う。その日の内容についてまとめをボランティアが行う。
- 長期休業での「補充講座」・休みの課題への取り組みを支援。それを生かしての定着・理解を目指す。

気づいたことや成果

- 生徒の学習意欲・必要感を大切に考えた方向は良い。生徒の学習意欲・集中力に目を見張る。
- 参加生徒数が6月など一日100人など多数の参加がある。
- プリント用意により、生徒もボランティアも内容が明確になり一回が充実している。生徒にも手応え感!
- ボランティアにより個に応じた支援も可能に。
- フリータイムの見守りボランティアもおり有難い。

課題や反省点

- ・申し込みは個人や家庭の意向なので、学力的に参加してほしい生徒をどう参加させるかの工夫が必要。担任からの薦めもしているが・・・
- ・中学準備のプリントと解答については誤りもあるため事前に確認が必要。また内容に応じて講師用の指導資料の必要性もあり準備するようになった。
- ・熱意のあるボランティアの方に支えられている。

中学生・保護者の声

〈生徒の声〉

- ◇数学がよく理解できるようになりました。授業では分からない所ができるようになったので参加して良かったと思いました。分からない所を質問するといいに 分かりやすく教えていただきました。テスト勉強にもなったのでとても良かったです。(1年生徒)
- ◇特に数学のわからない所が今日分かるようになったので良かった。教え方がすごい分かりやすく楽しく集中して取り組むことができた。行くことにより朝早く起きたりして生活リズムも整えることができた。参加して良かった。ボランティアの皆さんありがとう。(2年生徒)
- ◇分からない所やミスしてしまった所を地域の方が分かりやすく教えてくださって理解が深められました。更に難しい問題が解けると、ほめてもらえることもあり、やる気につながってうれしかったです。教えて下さった地域の方々ありがとうございました。(3年生徒)

〈保護者の声〉

- ◇授業以外に分からない所を教えてもらえるし、中学生の勉強となるとなかなか難しく親としては町の方が教えて下さるのは有難いです。家に帰ってきてもダラダラすることが多いので、学校の放課後を利用して学習できるのは良いと思います。
- ◇夏休みの補充講座は休みの最初に実施され、朝早くから参加でき、一日の生活リズムが崩れずしかも課題に取り組む終わらせることができたよう

てらこや松中(松川町立松川中学校)

事業実施状況

担当課・係	松川町教育委員会 生涯学習課 生涯学習・男女共同参画係
活動場所	松川中学校
登録人数	2年生51名、3年生74名
実施日等	平日 毎週水曜日 放課後午後3時30分～4時30分
	土日 —
	長期休業 8月1～5日
実施教科	数学 英語
負担金	なし
学習形式	授業形式、個別学習



コーディネーター	行政職員(1人)
学習支援員	元教員(3人)・塾講師(1人)
ボランティア	教員(2人)・元教員(2人)・塾講師(3人)

主なICT機器	ICT機器の活用(有・無)
	タブレット40台 電子黒板1台

取組の具体

- 地域の多くの方にご協力をいただき、少人数での学習指導で1人1人のつまずきに対応できるよう、工夫している。
- 電子黒板を使用した一斉学習やタブレットでの個別学習など、学年や教科、子どものニーズに応じてICT機器を学習に取り入れている。
- 学校の教員と地域講師との情報交換を定期的に行い、共通理解をもって学習支援に取り組んでいる。

気づいたことや成果

- ICT機器の利用が、学習に対する意欲付けや集中力の向上につながっている。
- 通常授業では質問ができない生徒も、少人数授業の中で、安心して質問できる環境ができています。
- 英語の発音指導や単語学習、数学の図形やグラフの学習などでは特に、ICT機器により視覚的・聴覚的な支援が可能になっている。

課題や反省点

- ・地域講師の方に、ICT機器の利用の可能性を広く知ってもらう研修や実践の場が必要。
- ・学校の教員と地域講師との連携や情報交換の場を、今後も継続して設けていく。
- ・学習支援を必要としている生徒に情報が届くよう、事業の取り組みを生徒や保護者に伝えていく。

中学生・保護者の声

〈中学生の声〉

- ◇学校の授業でわからなかった所が質問できたり、わかったりするので楽しい。
- ◇苦手な所を、地域講師の先生が丁寧に教えてくれたのでわかるようになった。
- ◇家で1人でやるよりも集中して勉強ができる。

〈保護者の声〉

- ◇塾に行っていないので、無料で苦手な教科を教えてくれるのはとてもありがたい。
- ◇受験やテストに向けて、放課後の時間を有意義に使えるので助かる。

小原ヶ丘塾(高森町立高森中学校)

事業実施状況



担当課・係	高森町教育委員会事務局 こども未来係	
活動場所	高森町立高森中学校	
登録人数	3年生 55人	
実施日等	平日	—
	土日	隔週土曜日(月2回) 午前8時30分～午前11時20分
	長期休業	8月1日(月)～8月5日(金)
実施教科	英語、数学 ※他教科の自習も可。	
負担金	なし	
学習形式	自習および授業形式	

コーディネーター	行政職員(1名)
学習支援員	元教員(4名)、その他(1名)
ボランティア	—

主なICT機器	ICT機器整備事業の活用(有・無)
	タブレット 40台 電子黒板 1台

取組の具体

- 生徒は自習を主とし、学習を進める中での疑問に講師が応え、指導する。
- タブレット用の学習教材を活用しつつ、Webによる調べ学習にも活用。
- 今後、総合教育センター教材の活用や授業形式の活用に向け準備中。

気づいたことや成果

- 生徒にとっては、学校で友人と学習に取り組む方が集中でき、励みになっているよう。
- 開始4ヶ月が経過し、生徒も支援員も現在のスタイルにだいぶ慣れてきて、徐々に質問をする生徒も増えてきた。
- 毎回出席が必須ではなく、生徒が自らの意思で出欠を決めることで、自主性を育むことができている。

課題や反省点

- ・ 支援員の配置体制は十分と思うが、生徒側からの積極的な質問等はまだまだ見られない。十分に活用が図られるよう、声掛けや促しを行っていきたい。
- ・ 今後も生徒自身の声にも積極的に耳を傾けながら、「学びたい」という意欲に十分に答えられる環境整備を継続していきたい。
- ・ 学習メニューに関して、学校側とも密に情報共有・連携し、今後はより中身を充実させていきたい。
- ・ 今後は、1・2年生にも学習機会を提供できるよう需要把握等しながら研究を進めていきたい。

中学生・保護者の声

<中学生の声>

◇よかったこと

解らないところは先生や友達にすぐに聞くことができる／講師からも個別に声を掛けてもらえる／友達と相談しながら、教え合いながら学習できる／周りに人がいる環境で集中できる／家庭とは違う環境(一人で無い)でやる気がでる、集中できる／気楽な環境、雑談も多少できる／席が自由、テーブルを囲んで学習できる／学校だけと普通の授業と全く違った雰囲気／勉強を強制させられていない

◇要望

制服でなく気楽な服装／自習のみでなく復習授業／プリントを使った学習／教科全てを教えて欲しい

麻績村筑北村学校組合立筑北中学校

事業実施状況



担当課・係	麻績村筑北村学校組合教育委員会	
活動場所	筑北中学校	
登録人数	全校生徒対象	
実施日等	平日	月1～2回水曜日15:35～16:35
	土日	月1～2回土曜日9:00～12:00
	長期休業	7月28日～8月22日(計6回)
実施教科	国語・数学・英語・社会・理科	
負担金	なし	
学習形式	授業形式・個別学習など	

コーディネーター	元教員(2人)・その他(1人)
学習支援員	大学生(5人)・元教員(3人)・その他(1人)
ボランティア	—

主なICT機器	ICT機器整備事業の活用(有 無)
	—

取組の具体

- 放課後学習は、数学・理科・英語の3教科の講座に分け、講座ごと担当する指導者によって授業形式と分からないところを生徒が質問する形式があり、希望する講座を生徒が選び学習を行う。
- 長期休業は、夏休みに教室を開放することで自習学習の時間と場所を提供し、学校職員と学習支援員により個別学習での指導や学習支援を行う。
- 土曜日は、午前中「学びの広場」と題して、学習支援員により学習支援を行う。五教科個別学習形式により分からないところについての質問を学習支援員がサポートする。

気づいたことや成果

- 1度参加した生徒は、継続的に参加をしてくれるようになってきている。
- 大学生や地域の学習支援員と接することにより、学力だけでなく、社会性の向上も見られた。

課題や反省点

- ・参加する生徒の固定化が見られるので、多くの生徒が参加するように参加募集を工夫する。
- ・土曜日の事業では、部活動が重なってしまう事もあるので、できる限り日程調整を行い、多くの生徒が参加できるように努める。

中学生・保護者の声

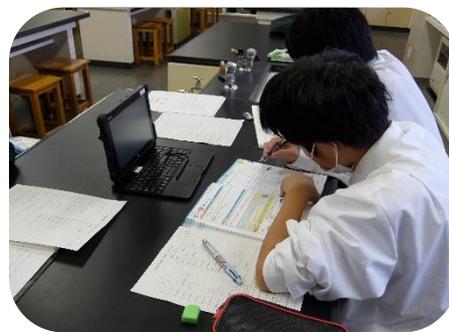
<中学生の声>

- ◇ わからないところがわかって、楽しかった。
- ◇ 家でするよりも学習に集中して取り組めた。
- ◇ 学習支援員が難しい問題を分かりやすく教えてくれたので、すごくためになった。
- ◇ 回数をもっと増やしてほしい。
- ◇ 学習支援員の人数を増やしてほしい。

放課後学習教室(松川村立松川中学校)

事業実施状況

担当課・係	松川村教育委員会 学校教育課	
活動場所	松川中学校	
登録人数	70名	
実施日等	平日	毎週水曜日 午後3:50～4:50
	土日	—
	長期休業	—
実施教科	国語 数学 理科 英語	
負担金	なし	
学習形式	個別学習	



コーディネーター	行政職員(1名)
学習支援員	元教員(16名)
ボランティア	—

主なICT機器	ICT機器整備事業の活用(有)無)
	タブレット40台

取組の具体

- 年度当初に参加希望を募り、本年度は70名が参加している。4教科をそれぞれ4人～6人グループに編成し、合計で12講座が開設されている。
- 水曜日の放課後に実施し、地域の支援員の先生方が来校され、子どもと個々にかかわりながら個別学習の支援をいただいている。
- 7月に導入していただいたタブレット等のICT機器を活用して、調べ学習が行われたり、わからないことを

気づいたことや成果

- 放課後学習では、生徒個々の課題追究が行われるため、一概にタブレットを活用した学習といっても、その用途は多岐にわたる。生徒の「追究したい」という意欲をサポートするためのICT機器は大変有効であると感じている。

課題や反省点

- ・希望する生徒の人数及びグループと校内で使用できる空き教室の数が足りずに苦慮している。
- ・ICT機器を使用して支援ができる講師が少なく、生徒が持っているICT機器の起用にかかわるスキルに依存している状態である。
- ・使用できるソフトの導入、使用方法等についての研修会を校内の先生方を対象に行い、それを支援員の先生方にお伝えできるようにしたい。

中学生・保護者の声

〈中学生の声〉

- ◇「水曜日の放課後は学校で学習をする」という習慣が身についてきた。放課後学習の時間に残っている友達は同じように勉強しようとする人たちが残っているので、雰囲気も良く勉強できる。
- ◇今までわからないことがあると、支援員の先生に聞いてばかりだったが、自分で調べたり、友達と調べあったりしながら学習を進めることができてよい。
- ◇自分一人で学習を進めたいときに、タブレットはとても便利。台数がたくさんあって、いつでも(放課後学習の時間内)使えるのがうれしい。

学力向上支援教室[1・2年生]・学習支援セミナー[3年生]
(小布施町立小布施中学校)

事業実施状況



担当課・係	小布施町教育委員会 子ども支援係	
活動場所	小布施中学校(学力向上) 北斎ホール(セミナー)	
登録人数	1年生20名 2年生3名 3年生39名	
実施日等	平日	毎週月曜日(学力向上) 毎週火・木曜日(セミナー)
	土日	—
	長期休業	—
実施教科	英語・数学	
負担金	無料(学力向上) 2,000/月(セミナー)	
学習形式	授業形式(個別対応)	

コーディネーター	行政職員(1名)[学力向上兼セミナー]
学習支援員	学力向上:元教員(1名)塾講師(1名)その他(3名) セミナー:塾講師(2名)その他(1名)
ボランティア	—

主なICT機器	ICT機器整備事業の活用(有)無)
	・タブレット5台(生徒用) ・タブレット2台(指導者用)

取組の具体

- 中学1年生・2年生を対象とした、学力向上支援教室は、地域の塾講師経験者や教員経験者等を募り、月曜日(部活動のない日)の放課後を使用し実施している。
- 中学3年生を対象とした、学習支援セミナーは信学会さんと提携し、塾の講師を派遣していただき実施している。

気づいたことや成果

- 学力向上支援において、ICTの使用は、学習意欲の向上や学習内容の定着に効果的である。
- 学習支援セミナーでは、授業形式ではあるが、個々の弱点を補えるよう、授業前と授業後の補助をしていただき、生徒からも好評である。

課題や反省点

- ・学力向上支援教室は、出席したりしなかったりで継続的に学習を受ける機会を提供しているが、無料のためか、参加する生徒が継続的に利用しないことがあり、課題である。
- ・どちらも希望者を対象としているため、もう少し基礎学力をつけて欲しいと願う子の参加がなかなか得られない。
- ・学校との連携が難しい。

中学生・保護者の声

- ◇学習支援セミナーは安くて、とてもありがたい。
- ◇学習の習慣をつけて欲しいので、毎週月曜日だけでも良い機会となっていると思う。